



あいさつ

日本太鼓協会代表理事
諏訪 幸男

『太鼓の森づくり』について考えたのは、ある福祉施設で太鼓の演奏会を開催させて頂いた際の、ひよんな質問からでした。そこで私はあるご婦人から「この皮はなんの皮?」「太鼓は何で出来ているの?」という質問を受けました。私は「皮は牛の皮ですよ。胴の部分は樺(ケヤキ)で出来ているのですよ。」と答えました。太鼓に関わっている人としては当然の事ですが、一般の人は知らない事なのだという事を知りました。

この出来事から、太鼓を知ってもらう為に演奏を聴いて頂く事はもちろんですが、太鼓自体について“理解して頂く事により、もっと太鼓を楽しんで頂けるのではないかと思います。”

樺は古名で“槻(ツキ)”と言いますが、埼玉県にはこの“槻”という名のある槻川という場所がありました。現在では合併により東秩父村となったその地を、この夏私は訪れてみる事になりました。訪れた東秩父村は自然が多く、土の匂いのする、木々の音のする素晴らしい環境の村で、この地が『太鼓の森』にもっともふさわしいところであると感じたのです。

和太鼓の演奏をする事と和太鼓を作る事とが一体となり和太鼓を残してゆく事が、私たちの役割であり、進歩してゆく事になるのではないのでしょうか。

太鼓の森の第一歩となる太鼓の森づくりで樺の苗木の世話をしてゆきながら、一〇〇年後・一五〇年後の和太鼓の将来を夢見ながら進んでゆきたいと考えています。